



砺波総合病院から

市立砺波総合病院 ☎32-3320

病院的ホームページもご覧ください。



皮膚科で入院が必要な病気

皮膚科部長 石田 清



今回は、主に皮膚科が診療を担当し、入院治療が必要な病気についていくつかお話しいたします。

砺波総合病院をはじめ、多くの病院の皮膚科における入院患者数の上位二つは

- ① 蜂窩織炎と丹毒
- ② 带状疱疹

各々の病気について簡単に説明します。

まず、蜂窩織炎と丹毒です。

蜂窩織炎は蜂巣炎とも言います。皮膚表面から皮下脂肪に細菌感染が広がった状態です。皮膚の浅い部分の細菌感染を丹毒と言います、深い部分は蜂窩織炎（蜂巣炎）と言

います。症状は部分的に赤く腫れて、その部分が熱を持ち、押したら痛くなります。丹毒は顔面に、蜂窩織炎は腕・脛に生じることがほとんどで、赤く腫れた部分が拡大すると38℃を超える発熱も生じます。傷口からの細菌の侵入が原因と考えられますが、明確な傷口が無くても発症します。

治療は局所の安静と氷水による冷却、抗生物質の投与です。①適切な抗生物質の選択と、②脛に発症した場合は、立ち仕事や歩き回る仕事をされている方は局所の安静を保つこと、これら二つが治療のポイントになります。

次に、带状疱疹です。

この病気は水痘・带状疱疹ウイルスが原因です。水痘にかかった方しか発症しません。赤いブツブツや水ぶくれなどの皮疹が全身の一部に、しかも片側だけに集中して出現します。

また皮疹がある周囲に痛みや痒み、感覚異常を伴います。この皮疹と感覚異常の出現はどちらが先行するかは決まっています。また出現のズレは長い場合、一週間くらいズレるので別々の病気と誤ってしまいかもしれません。

発症の原因は疲れ、ストレスによる免疫力の低下と考えられます。

治療は、抗ウイルス薬と痛み止めの内服です。この抗ウイルス薬は内服期間が限定され、早期内服開始が治療の重要ポイントです。頭部や顔面に発症した場合は、脳炎や髄膜炎が合併したり、難聴や顔面神経麻痺といった重症な合併症もあるので、積極的な治療が望ましいです。

これら二つの疾患は重症化した場合は入院治療が必要ですが、軽症の場合は外来通院での治療となります。まずはみなさんの「かかりつけ医」にご相談ください。そちらでの治療で病状の改善があれば、入院の必要は無いといえます。「かかりつけ医」での治療だけでは十分でなく、症状が悪化した場合は、何より安静が必要と思われる場合があります。入院治療を念頭に、現在治療中の病気や内服中の薬剤をまとめた紹介状を「かかりつけ医」に書いてもらい、当院へ受診されることをお勧めします。

